

令和7年度奈良県立医科大学 一般選抜（後期日程）

英語入試問題『解答例等』

※ 『出題の意図』についての質問、照会には一切回答しません。

※ 配点等については、令和7年度奈良県立医科大学学生募集要項を参照してください。

I

受験生にとって身近な話題について、自らの考えを題意に沿ってまとめ、短いパラグラフの中での確で説得力をもって伝える英語表現力を問う。

II

1. 英文記事の要点を、予備知識のほとんどない人に伝えるつもりで、論旨と記述項目の軽重のバランスに留意しながら一定字数の範囲内で日本語で記述させることにより、理解力と表現力を問う。
2. 本文記事の理解に基づいて、和文と同様の内容を過不足なく、文法に則って英語で表現する能力を問う。
3. 比較的長い第1段落と“longitudinal studies”を含む第2段落を注意深く読むことによって、大別して2種類の研究手法が用いられていること、および、それらを採用する理由と目的を、文脈から得られる推論を援用しつつ、正確に理解して、適切に表現する能力を問う。
4. 本文からの（一部変更を加えた）英文引用を利用して記された設問を理解した上で、ボランティア活動が健康に資する二種類の要因について関係する記述を正確に理解し、適切に表現する能力を問う。
5. 本文記事の論理展開から“control group”が科学的な研究にどのような役割を果たすかを推論的に理解して、適切に表現する能力を問う。
6. 前問に続いて、KonrathとPoulinが着目し、採用した研究手法の経緯とその研究結果を正確に理解し、適切に表現する能力を問う。
7. 記事中に現れた様々な英語表現に関して、語用法、慣用句（動詞句、前置詞句、その他）の基本的概念を理解し、文脈においてどのような意味合いを発揮するかを適切に

表現する能力を問う。あるいは総括的な英語表現が示唆する具体的な意味を問う。学習用英英辞典の活用がこの種の英語理解には有益になりうるであろう。

III

記載のように『学術語彙リスト』から選択した語に関して、実践的語彙能力を問う。英文の中に置かれた2グループの英単語の中から、最適の語を選択させることにより、意味、品詞、語用法の理解を含めた語彙運用能力を測る。

IV

問IIの英文から与えられたテーマについて、自らの考えを題意に沿ってまとめ、明瞭かつ論理的に伝える英文表現力を問うことにより、総合的な英語運用能力を評価する。